

授業科目 精神リハビリテーション学

【担当教員名】 岡村太郎	対象学年	3	対象学科	社会・作業
	開講時期	前・後期	必修・選択	選択
	単位数	4	時間数	60

【概要】

精神障害者のリハビリテーションは、障害者のノーマライゼーションの理念が生かされなければならず、個別援助のみでなくわが国の制度や社会資源の活用に至る幅広い視点が必要となる。精神障害者のおかれた現状を理解し、地域社会での生活のしづらさを改善するために社会福祉施設の効果的な利用方法を学ぶ。書籍や文献の講読も必要だが事例を紹介しながら学習するのが理解しやすいので取り入れる。

【学習目標】

- 精神科リハビリテーションの概念と基本原則が言える。
- 我が国の精神科入院患者の在院日数の長期化と高齢化現象及びその課題を言える。
- 精神障害者のリハビリテーションを進める上で基本となる「病」と「障害」を併せ持った対象者の存在を説明できる。
- 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割が言える。
- 精神科リハビリテーションに必要な社会復帰施設の種類と機能を言える。
- 精神科リハビリテーションと精神保健福祉法との関係が言える。
- 精神科リハビリテーションのプロセスと技術の基礎が説明できる。
- 精神科リハビリテーションを進めるために必要な情報検索の方法が言えできる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション 精神保健福祉士と精神科リハビリテーション学		講義
2	わが国の精神医療の歴史と精神科リハビリテーションの概念		講義
3	精神科リハビリテーションの理念と基本原則		講義
4	なぜ、精神障害者にとってリハビリテーションが大切なのか		講義
5	わが国の精神障害者施策の歴史と精神保健福祉行政		講義
6	わが国の精神障害者施策の背景と問題点を考える		講義
7	グループ討議と課題学習（レポート）		講義
8	課題学習		講義
9	精神障害者のための予算と全国の社会復帰施設の実態		講義
10	新潟県の精神障害者関連統計資料から精神保健福祉士の立場を考える		講義
11	病院における精神保健福祉士の活動と責任		講義
12	地域精神保健活動と精神保健福祉士の役割		講義
13	グループ討議と疑問点の整理		講義
14	作業療法士及び精神保健福祉士の国家試験問題の傾向		講義
15	後期の授業の進め方 資料集めと文献検索の方法		講義
16	重大な犯罪を犯した精神障害者処遇と我が国法改正の動き		講義
17	犯罪を犯した精神障害者への関わりと精神保健福祉士		講義
18	精神障害者を持ちながら生活		講義
19	精神障害者のための社会復帰施設 生活の場としての援護寮と福祉ホーム		講義
20	精神障害者のための社会復帰施設 働く場としての通所授産施設と共同作業所		講義
21	精神障害者のための就労支援 どのような機関があるか		講義
22	事例から精神保健福祉士と作業療法士の役割を考える		講義
23	グループ討議と課題学習		講義
24	グループ討議の結果発表		講義
25	精神保健福祉関連情報の整理と学会や雑誌から見た話題から		講義
26	精神科リハビリと精神科救急システムについて考える		講義
27	精神科リハビリテーションにおける連携と統合		講義
28	まとめと実習に向けての準備から		講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	精神科リハビリテーション学	徳永純三郎他	へるす出版	2001年 3,570円
参考書	精神科リハビリテーション・地域精神医療	井上新平他	中山書店	1999年 31,290円
	精神障害リハビリテーション学	蜂矢英彦他	金剛出版	2000年 3,800円
その他の資料	改訂精神保健福祉法詳解	精神保健福祉研究会	中央法規	2000年 6,000円
	我が国の精神保健福祉	精神保健福祉研究会	太陽美術	2001年 2,191円

【評価方法】【履修上の留意点】

1 レポートと出席あるいは小テストを採点基準とする。

2 レポートが60点以下の場合書き直しがあり、再提出しない場合は不合格になることがある。